

Mental Status Examination

山形県立こころの医療センター
精神科認定看護師
板垣健

何年か前、岩手の学会に参加した時のことです。研修会でこのような問がありました。

「精神科の専門性とはなんでしょう？」

私は精神科経験年数は15年ほど経っていました。精神科看護師としてある程度自信も持っていましたし、スキルも身に付けているのではないかと感じていました。しかし、自分の中に全く答えが見えてこないのです。私はとても衝撃を受けたのを覚えています。そのとき出会ったのが、Mental Status Examination: 精神状態の査定(以下 MSE)です。

精神科では、身体科のように画像や数値といった客観的で保存可能なデータがほとんどありません。では、身体科の画像や数値に変わるものはなんでしょう？それは、私たち医療者が行う「記録」です。つまり、画像や数値データに代わる記録を書けることが精神科の専門性ということができます。そのために必要なのが MSE ということになります。

では、「画像や数値データに代わる記録」とはどのようなものでしょうか？当院では SOAP で記録を行っています。SOAP でいつも悩まされるのがアセスメントではないでしょうか。アセスメントでまず行うことは、患者さんに起きている事象を「概ねこういうものだ」と説明すること。つまり概念化です。例えば「注察妄想がある」「気分高揚がある」などです。次に①精神症状、②心理的反応、③セルフケア

ア、④精神医学的病歴、⑤薬物療法(図1参照)を組み合わせ考え、理論的に推論し記述します。

しかしながら、概念化はできるとしても理論的に推論するって難しいですね。実は臨床判断するという技術は、その看護師が持つ知識の豊富さがそのまま反映され、臨床経験の1つの指標といわれています。つまり概念化はできるけどそのあとの論理的に推論ができない、何を書けばいいかわからないという状況は、知識の不足に起因している可能性も考えられるということです。

私自身もっと学んでいく必要があるのだなと改めて痛感しました。精神科って奥が深いですね。人生日々精進です！

S 患者が語る“内的体験”を傾聴して記録し・・・
O 医療者が観察した、患者の“行動”を記録し・・・
A それに適切な医学用語・専門用語をつけ、さらになぜ起きているのか推論する
P 推論からどのような看護介入が必要かプランニング

